

1. 前回及び今回委員会の検討内容の関係整理

前回委員会での検討

1. 生駒の景観の構造

(1) 全体の景観構造

- ・ 竜田川流域（生駒谷）
 - ・ ・ ・ 秋津洲やまと型景観＋神奈備山型景観
 - ・ 富雄川流域・ ・ ・ 水分型景観＋隠国型景観
 - ・ 眺望景観による検証
- 地形と流域が規定する骨格となる景観構造が現在まで継承され息づいている

(2) 歴史的、文化的文脈と景観の特徴

- ・ 生駒谷のモリさん信仰
- ・ 集落の構造
 - 生駒山との関係、寺社との関係、モリさんや農地、家屋の関係
- ・ 集落の景観の特徴

(3) 住宅団地の開発の経緯と景観の特徴

- ・ 鉄道敷設以後、放射状に住宅地が造成
- ・ 時代背景や建設技術に即し特徴ある住宅地が形成
 - 昭和 30～40 年代の戸建て住宅地（東生駒、生駒台など）
 - 昭和 50～60 年代の戸建て住宅地（萩の台など）
 - 平成以降の戸建て住宅地（西白庭台など）
 - 集合住宅地（東生駒駅周辺、白庭台駅周辺）

3. 景観形成の課題

(1) 生駒のアイデンティティを体現する景観の構造をどう認識し、後世に継承していくのか

4. 景観形成の理念・目標（案）

(1) 地形と流域、信仰や風土が形づくった生駒のアイデンティティの源泉となる景観構造を継承する

- ・ 生駒山、矢田丘陵、竜田川流域（生駒谷）と富雄川流域
- ・ 生駒山の信仰、モリさん信仰、集落の構造

2-1. 景観の現況（類型別） ※現行ガイドプランの類型に即して整理

自然景観

1. 山麓・丘陵



2. 水辺



田園景観

3. 田園



4. 近郊緑地



5. 歴史文化



市街地景観

6. 住宅地



7. 拠点地区



8. 幹線道路沿道



2-2. 景観の変化（暮らし、活動）

①自然公園や風致地区の指定などにより、大半は開発からは保全されているが、山林・水辺と暮らしとの関わりが希薄化し、自然環境の劣化が進むなど質的な変化が進んでいる

②それに対して、市民によるレクリエーション的な活用、山麓保全の活動、地域での清掃活動が行われているが、広大な山麓・丘陵などに対し十分手が届かない

①北部を中心とした田園景観や、街道沿いや寺社周辺に見られる歴史・文化を感じる景観が、生駒市の魅力ある景観として十分認識されていない

②農業の担い手は兼業農家が多く、高齢化・後継者不足も顕在化しつつあることなどを背景に、今後、農地や集落を維持していくことが難しくなりつつある

①比較的開発年代の古い住宅団地などを中心に、空き家・空き地の増加、相続等を契機とした建て替えによる敷地の細分化が進んでいる

②生活行動の広域化や自動車利用の更なる進展、ICT 利用の拡大などにより市民の買い物行動が変化し、中心市街地から郊外の幹線道路沿道などへとにぎわいの中心が分散化してきている

(2) 生駒のまちの魅力をさらに向上させていくために、景観の特性に即した形でどのように誘導を図るのか

(3) 景観を暮らし・活動の中でどう支えていくのか

理念：（キーワード）生駒らしい景観、アイデンティティ、再発見、継承・・・

(2) 場所の特性に応じた景観の保全・誘導を図り、生駒のまち全体の魅力を高める

- ①山麓・丘陵、河川など、骨格となる景観の保全
- ②拠点地区、幹線道路沿道など、人の目に多く触れ印象を左右する景観の誘導
- ③集落や住宅地など、形成の過程（なりたち）からの景観の読み解き

(3) 身近な景観（生活景）を多様な暮らし・活動の関わりにより支えていく

- ・ 住民が自ら景観に関わり、磨いていく活動へと発展させる
- ・ そうした動きを行政側が支援していく

景観を構成している（成らしめている）要素を読み解き、「前提」として認識すべき「景観形成の基本原則」として柱立て

前回委員会意見を踏まえて3つに再整理（細項目化）

1. 地勢
地形の骨格を認識し尊重する

2. 場所性 場所の特性を読み解き、調和を図る

2-1. 歴史・文化の文脈
歴史・文化の文脈を受け継いでいく

2-2. 市街地開発の文脈
市街地開発の経験を学び蓄積を生かす

2-3. 界隈の空気
界隈が醸す空気を読み調和させる

3. 暮らしの営み
暮らしの関わりの中で景観を育てる

今回委員会での検討

2. 生駒市景観形成基本計画の全体構成（案）

第1章 はじめに (計画の基本的事項)

計画の目的、位置付け、構成などの基本的な事項を述べる

- 改訂の背景
- 目的

<本計画でめざすもの>
**①生駒の景観の特性
(生駒らしさ)を認識し
<景観特性>**

**②その上で前提とすべき「基本原則」に則って、
<基本原則>**

**③景観を構成する(成らしめている)要素を読み解き認識し、
<構成要素・キーワード>**

**④市民・事業者・行政が自ら考え、協働のもとで景観形成を図る
<方針・推進方策>**

計画とする

- 位置付け
- 基本計画の構成
- 景観とは、景観まちづくりとは

第2章 生駒の景観形成の基本理念と景観特性

生駒の良好な景観の形成に向けた基本理念を示すとともに、景観特性(なり立ち)を明らかにする

1 基本理念

2 生駒の景観特性

生駒の景観をどう認識していくのか、を示す

景観特性

1 地勢

地形・流域など「大景観」として生駒のアイデンティティを体現

2 地域性

自然、田園、市街地景観など「中～小景観」として場所に応じて多様な特性を持つ

3 暮らし

1、2の景観は人の暮らしの中で支えられている

生駒の良好な景観の形成に当たっての
 基本的な考え方や姿勢を示す

第3章 生駒の景観形成の基本原則と構成要素

生駒の景観特性を踏まえて前提となる基本原則を定め、それを構成する(成らしめている)要素を読み解くとともに、キーワード(パターン)を抽出する

1 基本原則

特性を伸長するため前提として遵守すべき原則を設定

基本原則

1 地勢 (perspective)

地形の骨格を認識し尊重する

2 場所性 (location)

場所の特性を読み解き、調和を図る

2-1. 歴史・文化の文脈

歴史・文化の文脈を受け継いでいく

2-2. 市街地開発の文脈

市街地開発の経験を学び蓄積を生かす

2-3. 界隈の空気

界隈が醸す空気を読み調和させる

3 暮らしの営み (Action)

暮らしの関わりの中で景観を育てる

2 構成要素とキーワード

原則に則って景観を読み解き、その背後にある構成要素とキーワード(パターン)を明らかにする

構成要素

キーワード(パターン)

(1)尾根筋がつくる骨格	
(2)流域ごとに固有の谷空間	
(3)聖なる生駒山	
(1)大地と一体となった集落	
(2)信仰や生活が生む空間構成	
(3)受け継がれる伝統的な要素	
(1)骨格となる地形との対話	
(2)通りの空間尺度	
(3)敷き際の表情	
(4)人々を迎え入れる駅前空間	
(1)機能的な幹線道路の空間	
(2)商店街の親密な空間構成	
(3)駅を中心とした日常のゲート空間	
(1)人々の原風景	
(2)生業の風景	
(3)催事(ハレ)の風景	
(4)身近な環境の維持・保全	

第4章 景観形成の方針

第3章で抽出した基本原則、構成要素をもとに、具体的にどのように取り組んでいくのか(基本原則～構成要素～キーワードをどう使いこなしていくのか)の方針を記載する

第5章 景観形成の推進に向けて

市民、事業者、行政でどのように取り組むか、取り組みのステップと役割分担を記載する